

られける。多好方是を聞て、かの内侍に問ければ、しらざるよしをぞこたへける。此曲調曲は、宗家卿、冷泉内府にもおしえられたりけるとかや、

〔秦山集雜著十五〕伊勢不納神文、下部安倍每事有神文、垂加靈社所納神文八通、其他晚年皆火之、八

通曰公通卿曰土御門三位泰福卿曰出雲路民部曰梨木左京權大夫曰梨木弟采女曰稻荷神主大

山左兵衛曰植田玄節曰某也○中

垂加社門人神文三條、一曰神道傳授無許可不可妄口外、雖許可之後、非其人不可傳之事、二曰不可

以異國之道混說事、三曰師傳之思義不可疎略事、右條々任神明之照覽、不可違犯者也、年月日姓名

墨判、

〔秦山集雜著十五〕血言阿世、神之所忌、故神文墨判而已、無血判、

〔泊酒筆話〕一縣居翁東都へ來られて、門人數あまたありけるか、入門のをり、烏計非言といふものをか、せしめられき、そは今も世にすなる、入門の誓詞なり、其文は

加茂宇志迺教賜倍屢

皇御國能上代乃道遠、已痛願斯奴倍里故名簿進其世、其道爾赴伊摩由後教賜言遂、爾遠許流爾之、有受波安駄志人爾私言勢自且宇志爾對比、爲耶無異心、違波爾違言、恐伎天津神國津神多知志食穴畏、此鳥計非違言、恐伎天津神國津神多知志食穴畏、

年號月日

加茂縣主大人爾上

通稱

姓名 花押

此文を入門のをり、人々に自筆にてか、せられしが、岡部の家にもり残りつたはれるを、先年翁の孫通稱平、今の家あるじにこひて、おのが家に襲藏す、元文三年翁年四より、明和四年翁年七十にて